



開設式に出席した弘大の福田学長
(左から2人目)と森永製菓の渡部
執行役員研究所長(同3人目)ら

食と健康の相関 共同研究

弘大×森永製菓 ビッグデータ活用

弘前大学と森永製菓(本社東京都)は、弘大が約20年続けている岩木健康増進プロジェクト健診のビッグデータから、食や運動と健康の相関関係を研究し、新たな商品やサービスの開発を目指す。14日、同大で共同研究講座「ウェルネスフードイノベーション講座」の開設式を行った。

ウェルネスは、心身ともに充実した状態を目指す概念。森永製菓グループは経営計画として「2030年にウェルネスカンパニーへ生まれ変わる」を掲げており、活性化することで老化を抑制すると考えられているサーチュイン遺伝子(長寿遺伝子)の発現についてなどウェルネスの向上に関する研究を進めてきた。

同社は本年度から岩木健診に参加しており、受診者の血液からデータを取っている。今後は同社の研究員2人が弘前市に常駐し、健康状態と長寿遺伝子の発現状態の関係性や、パッションフルーツの種子に含まれるポリフェノールの一種・ピセアタンノールの健康効果などを研究する。

同社の渡部宏之執行役員研究所長は「幅広いデータを検証し、結果を商品やサービスに生かせることを期待している」と話した。弘大の福田眞作学長は「研究の中で新たなテーマも必ず見つかると思う。成果を楽しみにしている」と述べた。

講座の設置期間は今年5月1日から28年4月30日までの3年間。(渋谷ひな乃)